

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生について

8月6日、市内医療機関より、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生届の提出がありましたのでお知らせいたします。

SFTS患者は主に西日本で報告があり、最近では関東地域でも患者発生が認められており、本件は、道内1例目の発生となります。

SFTSは、主にSFTSウイルスを保有するマダニに咬(か)まれることで感染します。

そのため、マダニの活動が盛んになる春から秋にかけて患者が多く発生します。

草むらや藪などに入る場合は、肌の露出を少なくし、虫除け剤を使用するなどして、マダニに咬まれないようにしましょう。

また、SFTSウイルスに感染・発病したネコやイヌから感染する事例も報告されていることから、体調不良の原因が明らかでないペットとの接触にも注意をしましょう。

1 概要

(1) 年代、性別等

道央圏在住、60歳代、男性

(2) 症状

発熱、頭痛、筋肉痛、下痢 等

(3) 感染地域

北海道内

(4) 感染経路

不明（行動歴に草刈りがあるが、日常的に草木に触れる機会があり、感染経路は不明）

(5) 経過

- ・ 7月下旬 マダニに肩を咬まれていることに気づき、除去
- ・ 7月30日 発熱、頭痛、筋肉痛等を発症
- ・ 8月2日 医療機関を受診（その後、転院し入院）
- ・ 8月4日 ダニの刺咬歴・臨床症状や血液検査所見などから、医師が重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を疑い札幌市保健所に連絡
- ・ 8月6日 札幌市衛生研究所での検査の結果、SFTSウイルス陽性と判明
医療機関が札幌市保健所に発生届を提出

※患者のプライバシーの保護のため、提供資料の範囲内での報道をお願いいたします。

2 発生状況

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
全国	111	116	134	120	120※
北海道	0	0	0	0	1

※令和7年7月27日までの報告件数（速報値）

3 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

別紙のとおり

<問い合わせ先>保健福祉局保健所感染症総合対策課 畠山、森
電話：622-5199、FAX：622-5168

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

1 主な症状等

- ・主に SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。
（マダニの SFTS ウイルス保有率は地域や季節によりますが、数%程度とされています。）
- ・潜伏期間は、6日～2週間程度です。
- ・主な症状は発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）であり、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。
- ・血液検査では、血小板減少、白血球減少、血清酵素の上昇が認められます。
- ・致死率は10～30パーセント程度です。

2 感染経路

- ・ウイルスを保有するマダニの刺咬（しこう）による感染が中心です。
- ・SFTS ウイルスに感染したペットのネコやイヌから人への感染例も報告されています。

3 予防方法

- ・マダニに咬まれないようにすることが重要です。
- ・草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダルのような肌を露出するようなものは避ける。）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。
- ・虫よけ（忌避剤）の併用も効果が期待されます。
- ・ペットがマダニに咬まれないためには、散歩後の体表チェックや目の細かい櫛をかけること、ペット用のダニ駆除剤の使用も効果的です。また、ペットに触ったら手を洗いましょう。

4 マダニに咬まれた際の対応について

- ・野外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ・マダニの咬着（咬みついたまま皮膚から離れない状態）が認められた場合は、無理に自分で引っ張ったりせず、ただちに皮膚科などを受診し、マダニの頭部が残らないように除去してもらうことが重要です。
- ・マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、内科などで診察を受けてください。
- ・ペットにマダニの咬着が認められた場合は、獣医師に除去してもらってください。

5 その他

北海道内ではマダニが媒介する感染症として、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎、エゾウイルスの患者が確認されています。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15日程度	発熱、倦怠感、慢性游走性紅斑 等
回帰熱	7～10日程度	発熱（39℃以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感 等
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎 等
エゾウイルス	4～9日程度	発熱、発疹、関節痛、筋肉痛、頭痛 等